

ナースリー・ルームにおける小児保健実習についての一考察

井桁 容子*, 小野 明美*, 小池田千春*, 佐々木聰子*, 日暮 眞**

(平成10年9月30日受理)

Comparison of Awareness of Student Between Pre-Practise Child Health and Post-Practise

Yoko IGETA, Akemi ONO, Chiharu KOIKEDA
Satoko SASAKI and Makoto HIGURASI

(Received on September 30, 1998)

1. 目 的

昭和42年5月に東京家政大学児童学科に開設されたナースリー・ルームが、平成9年5月に開設30周年を迎えることができた。そこで、本研究は開設以来受け入れてきた児童学科3年生の小児保健実習について、実習前、実習後アンケート調査を行い、考察することによって学生の実態を把握し、この実習の意義を再確認すると共に、今後の指導のあり方を探ることを目的とした。

2. 方 法

○調査対象：児童学科，児童学専攻3年生，小児保健実習を選択し（保母免許必選），ナースリー・ルーム実習（以下ナースリー実習とする）を行った平成8年～9年の学生146名。

※・履修者が多く，平成8年～9年は前年度の2月より実習受け入れを開始した為，若干2年生も含む。

・実習方法，スケジュール等については，表1を参照願いたい。

○調査方法：ナースリー実習の開始前と終了後に実施しているアンケート調査（記名，質問紙，自由記述を含む）の中から，今回は実習前アンケート，実習後アンケート項目のそれぞれ6項目を抽出し，集計結果をまとめ考察した。

・集計数：実習前アンケート，145名，実習後アンケート，145名。

3. 結果及び考察

○実習前アンケート結果及び考察

実習前アンケートより抽出した6項目は次の通りである。

- ① 今までに実習した経験の有無 — 表2
- ② 今までに乳幼児に接した経験の有無 — 図1表3
- ③ 実習に対する不安の有無 — 図2
- ④ 児童科を選択した動機（複数回答） — 表4
- ⑤ 将来希望する職業（複数回答） — 表5
- ⑥ 将来自分の子どもを保育園に預けるか — 図3
その理由（自由記述）

項目①の「今までに実習の経験がありますか」というナースリー実習以前の実習経験の有無の問いに対し、「ある」が75名，「ない」が70名とほぼ同数であった。表1の年間スケジュールに示した通り，学外実習が3年生の夏に開始されるので，前期は実習経験のない学生が占め，後期は殆んどが実習経験者となる。

項目②の「今までに乳幼児に接したことがありますか」という問いに対する回答は，図1の通りである。1～3才児では，24名（17%）が接した経験がないと回答し，乳児については，60名（41%）もの学生が接したことがないと回答していた。この結果から，児童学を専攻する学生であっても，乳児に接した経験のない学生が多いことが明らかになった。そこで，「実習経験の有無」と「乳児及び1～3才児に接した経験の有無」との相関関係を示したものが表3である。実習経験のある群では，1～3才児に70名（93%）の学生が接した経験があり，

* 東京家政大学ナースリー・ルーム

** 東京家政大学児童学科小児医学第2研究室

表 1 実習生受け入れ年間スケジュール

月	学 2	学 3	学 4
4 月		O-1 反省会 (1回目)	
5 月			幼稚園 (2W)
6 月			
7 月		ナースリー・ルーム	
8 月	保育所 (2W) 施設		
9 月	(10D)		
10 月			幼稚園 (2W)
11 月		(5 D)	
12 月			
1 月		反省会 (2回目)	
2 月	O-2 ナースリー・ルーム		
3 月			

* 履修学生が多いので平成 8、9 年は、学 2 2 月から始めた

ナースリー実習スケジュール

日程	学生 A	学生 B
2 日前	個別オリエンテーション(実習要領配布)	
	アンケート提出	
1 日目	2 才児	0 才児
2 日目	2 才児	0 才児
3 日目	1 才児	2 才児
4 日目	0 才児	2 才児
5 日目	0 才児	1 才児
2 日以内	アンケート、レポート提出	

* 学生は 2 人一組ではいる

* 毎日実習終了後ミーティング

O・orientation
W・week
D・day

実習経験のない群でも 48 名 (69%) が接した経験ありと回答している。しかし、乳児については、実習経験のある群 75 名中、接した経験がないと回答したものが 31 名 (41%)、実習経験のない群 70 名中では 29 名 (41%) を占めた。

つまり、実習経験のある学生の殆んどが 1~3 才児に接した経験があるのに対して、乳児は、実習を経験した学生であっても接する機会が少なく、41% の学生が乳児に接する機会を持っていないということが明らかになった。年々多様化してくる保育ニーズに、対応できる保育

者を養成するという点から考えても、3才未満児、特に乳児と接する機会を増やし、学生の乳児に対する理解を深めていくことが、今後増々重要不可欠となるであろう。

項目③の「実習に対しての不安がありますか」に対する回答結果は、図2の通りである。「少しある」103名(71%)、「非常にある」33名(22.8%)、「ない」9名(6.2%)という結果であり、「非常にある」と回答している学生のうち、23名が実習経験のない学生であった。

このことから、実習経験のない学生はもちろん、実習経験者であっても、9割以上の学生が、少なからず不安を感じていることがわかった。しかし、殆どどの学生が感じている不安や緊張感は、実習に真剣に取り組もうとする前向きな姿であり、必ずしもマイナス要因にはなっていない。それに対し、実習前にアルバイトなどを経験し、子どもに関わったことがあり、「不安がない」と回答している学生の一部に、子どもに対しての新しい発見や興味よりも、要領や手際の良さなどのマニュアルを先に身につけてしまっている傾向が見られた。学生にとって、子どもに接した経験の内容や質によっては、必ずしもその経験がプラスに働くとは限らないことが確認されたことは、今後の課題として残されている。

項目④の「あなたが児童科を選んだ動機は」(10項目の中から2つ選ぶ)の結果は表4の通りである。「子どもが好きだから」が106名(73%)を占め、「子どもの頃から保育者に憧れていた」「資格を取得するため」がランクの上位を占めている。また、年度別に学生の傾向の変化を見ても順位に変化はなかった。『保育科学生の保育養成校志望の動機』1987年、井上¹⁾の研究で、11年前の結果であるが、「子どもが好きだから」が1位にあげられ、2位は「自分の子どもを育てるのに役立つから」であった。『保育科学生の保育職以外の職業選択』1995年、上田²⁾の研究においても、保育科入学志望の動機の結果の中で「子どもが好きだから」が1位、「自分にあっていると思ったから」が2位であった。

将来保育者を志す学生にとって、「子どもが好きだから」ということが、その動機として大きな要因となっていることが明らかになった。また、資格取得が優先されず、純粋に子どもが好き、あるいは保育者に憧れて児童科を選択している学生が多いことも解った。

項目⑤の「将来どんな職業につきたいと考えていますか」(8項目から2つ選ぶ)の回答の結果は、表5の通りであり、第1位が保育所保育士、2位が幼稚園教諭、3位が社会福祉事業専門員という結果であった。平成8年及び9年の年度別推移に、あまり変化はみられなかった。

保育所保育士と幼稚園教諭を希望している学生が全体の80.7%に及び、社会福祉事業専門員を含めると、全体の9割が専門性を生かした職業につきたいと考えている。

項目⑥の「あなたは自分の子どもを保育園に預けて働く気持ちがありますか」の問いに対する結果は、図3の通りである。「預けて働く」と答えた学生が88名、「預けない」と答えた学生が54名で、「預ける」と回答した学生の主な理由を挙げると、

- ・仕事を持っていたい
- ・仕事を持っていたいし、子どもの社会性を養うのに役立つ
- ・子どもの数が減少し、子ども同士で遊ぶ経験が少ないから
- ・子どもの成長に、多くの人々との関わりが大切だと思うから
- ・自分が保育園出身なので、安心して預けられると判断できたから(ただし園は選びたい)

などであり、その他「収入が欲しい」や「死別や離婚した時に収入があった方がよいから」等、経済的理由を挙げている学生もいた。

「預けない」と回答した学生の主な理由は、

- ・短い貴重な時間なので、子どもが幼いうちは(3才位まで)自分で育てたい
- ・乳幼児期は母親の愛情のもとで育てたい
- ・せっかく児童科で学んだのだから自分で育てたい
- ・子どもを産んだら仕事はやめる

などであった。年度別の推移をみると「預けて働く」と回答している学生が、平成8年度より平成9年度の方が12名増加している。一年間で12名の増加は、単なる年度による差にあるのか、仕事を持つ女性の増加が反映している結果なのかは、短絡的に結論づけることはできない。今後の調査結果が興味深いものである。また、「子どもが好きだから」が児童科を選んだ動機の一歩の理由であれば、自分の子どもを自分の手で育てたいと思う学生が30%いても当然の結果といえる。

表2 実習経験の有無

	平成8年	平成9年	合計
ある	39	36	75
ない	34	36	70

表5 希望する職業(複数回答)

希望する職業	人数
保育所保育	113
幼稚園教諭	105
社会福祉事業専門員	28
事務、経理従事者	4
営業、販売従事者	1
旅行プロモーター	1
その他	18

表3 乳児に接した経験の有無と実習経験との関係

乳児に接した経験の有無と
実習経験との関係

1-3才未満児に接した経験の
有無と実習経験との関係

接した経験	実習経験有り(75名)	実習経験無し(70名)
ある	43 (57%)	38 (54.3%)
ない	31 (41%)	29 (41.4%)
無回答	4 (5%)	3 (4.3%)

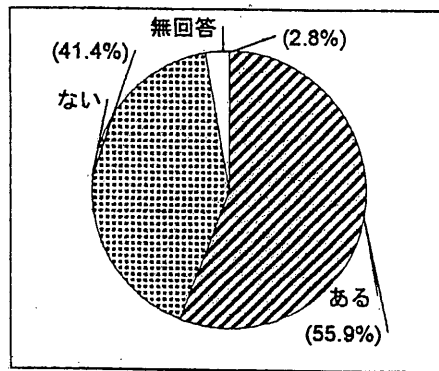
接した経験	実習経験有り(75名)	実習経験無し(70名)
ある	70 (93%)	48 (69%)
ない	5 (7%)	19 (27%)
無回答	0	3 (4%)

表4 児童科を選んだ動機(複数回答)

順位	児童科を選んだ動機	人数
1	子供が好きだから	106
2	子どもの頃から保育者に憧れていたから	67
3	資格を取得するため	37
4	専門知識や技術を取得するため	20
5	自分に向いていると思ったから	18
6	幼児教育の重要性を感じたから	18
7	将来子どもを育てるのに役立つから	16
8	教養を深め視野を拡大し、人格形成をはかるため	9
9	親、先輩に勧められたから	3
10	その他	3

乳児に接した経験の有無 (145名)

ある	81
ない	60
無回答	4



1-3才未満児に接した経験の有無 (145名)

ある	118
ない	24
無回答	3

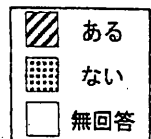
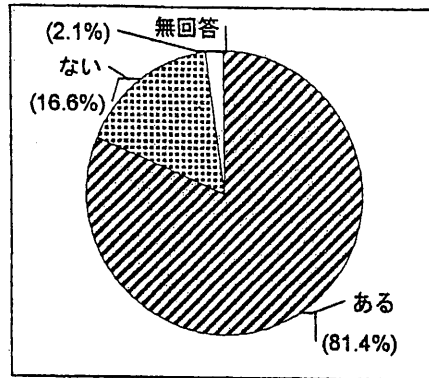


図1 乳児・1～3才未満児に接した経験の有無(145名)

図2 実習に対する不安 (145名)

非常にある	33
少しある	103
ない	9

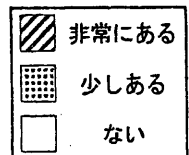
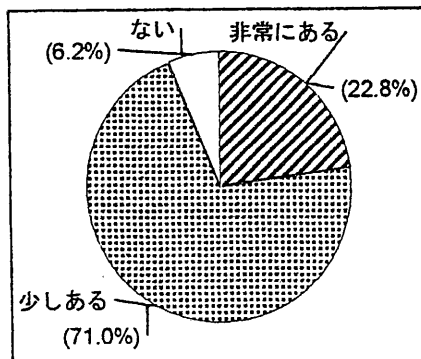


図2 実習に対する不安(145名)

回答	平成8年	平成9年	合計
ある	38	50	88
ない	33	21	54
無回答	1	2	3

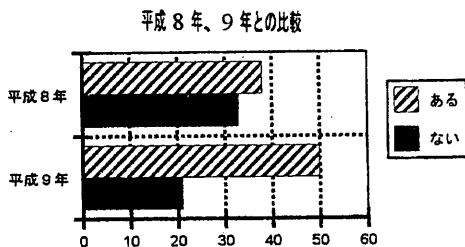
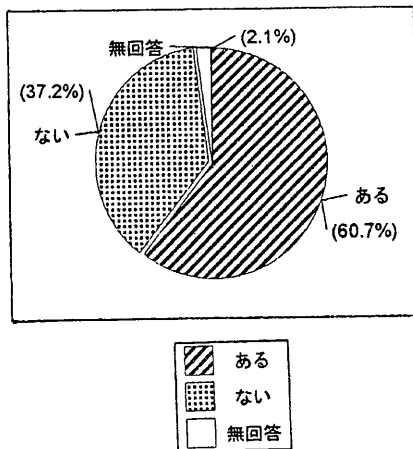


図3 子どもを保育園に預け働く気持ち(145名)

○実習後アンケート結果及び考察

実習後アンケートより抽出した6項目は次の通りである。(全項目・自由記述)

- ① 実習後、最も印象に残っていること — 表6
- ② 興味を持った年齢とその理由 — 図4
- ③ ナースリー実習後の感想 — 図5
- ④ 将来、自分の子どもを保育園に預けるか
その理由 — 図6
- ⑤ 実習後の感想(他の実習も含む) — 表7
- ⑥ 理想の保育者像 — 表8

項目①の「実習を終えて一番印象に残っていることは何ですか」という問いに対し、自由記述の内容を分類すると表6に示すように、回答が得られた134名中、子どもに関することが56名(42%)で最も多かった。その内容の一部を挙げると、

- ・つねに何かに興味を持っているような目で、全ての行動を自分から意欲的に行っている様子が観られたこと
- ・子ども同士でけんか(物の取り合いなど)を解決していく姿を観ることができたこと
- ・今までの自分が持っていた子ども像が変わってしまうほど、子どもにはいろいろな力があると知ったこと
- ・2才児と1才児は1年違うだけで、身体、言葉の成長が全然違い、また乳児は1ヶ月の差、成長の差が大きいこと

などがあつた。次に、保育者に関するものが27名(20%)であり、その一部を挙げると、

- ・どんなに小さな子どもでも、それぞれに個性がきちんとあり、子ども一人一人に合わせた接し方を保育者は考え行動していることがわかったこと
- ・見えないところでの保育者の配慮と子どものことを深く考えての環境作りがすごい
- ・保育者の子ども一人一人に対する愛情

などであつた。3番目に、行事への参加や散歩などを通して、実習生自身が子どもに直接関わりを持てた時の印象が19名(14%)、次に保育者と子どもの信頼関係の強さや楽しそうな関わりの方の印象が11名(8%)であつた。

実習生として保育室に入りながらも、積極的な子どもへの関わりは避けるという観察主体の実習形態をとっている為、回答の中にみられた「観察だけでは退屈と思っていたが、見ているだけでも子どもの行動はおもしろい」という表現が象徴しているように、観察実習の難しさや迷いの中でも、「子どもを観る」楽しさ、重要さに気付いていることが伺える。子どもの様子や保育者の働きかけをじっくり観ているうちに、漠然と描いていた自分なりの子ども像に何らかの影響を受け、学生なりの自己課題をみつけていた。

項目②の「最も興味を持った年齢」という問いに0才、1才、2才、それぞれがほぼ同数の回答であつた。実習前アンケートで、乳児に接した経験がないと回答した学

生が54名(28%)おり、反対に1～3才児は121名(82%)が接した経験があると答えていたが、それらの実習前の経験と実習後の興味を持った年齢とは相関関係はみられなかった。産休明けの乳児をはじめ、低月齢児に実習生が直接関わることは、安全への配慮から(実習期間が短い)避けている為に、体験を通じての興味を増すということにはつながりにくいようである。更に、実習時期によっても乳児の状況が変わることや実習中のエピソード等に、学生の印象が影響されている回答も少なくなかった。

各年齢ごとに興味を持った理由を自由記述によって求めた回答の結果は、以下のようであった。

〈乳児に興味を持った理由〉

回答した24名の内容をみると、「思ったよりも色々なことが理解できたり、行動できたりする乳児自身の持つ力に感動したり、個人差というものを実感できた」というものが11名を占め、次に「日々の発達をめざましさと月齢差」と答えたものが9名いた。その他、実際に抱いたり、授乳をしたりなど、直接関わることできたときの感動などが、その理由として挙げられていた。

乳児期は、保育者への愛着が重要である為に、2日間という短期間の実習生が乳児に直接関わることには、おのずと限界がある。また、1～3才児に比べると、子どもからの働きかけも少ない為に、特に観察が多くなりがちであるが、保育者が乳児の行動の意味や保育行為の目的などを、場面に応じて解説することで補った。そのことがかえって学生に、言葉を持たない乳児を認識し、理解するための視点を導き出すことができたのではないかと考えられる。乳児の行動、表情、関わりの様子などによく着目でき、“何もできない未熟な存在”というイメージから、“意志や個性を持ち、考えていた以上に色々なことがわかっている存在”として、初めて気付いて感動したという感想が多かったことは、保育者として重要な資質と考えられる、子どもへの共感的態度、受容力という視点から、ナースリー実習の意義を確認できたともいえる。

〈1～2才児に興味を持った理由〉

学生の回答の一部を抜粋すると、

- ・言葉が多く話せないで、手が出てしまうことがあり、それを理解してあげて保育するのは難しいけれど、やりがいがありそうだった
- ・一人一人の個性がはっきりしていて、一日中見てい

ても、いろいろな発見があっておもしろい

・言葉にならない言葉の中には、動作や表情を含めてたくさんの気持ちが込められているとわかったからなど、1～2才時期の特徴的な子どもの様子をよくとらえられ、そのことが興味を持った理由に挙げられている回答が、全体の62%を占めていた。このことは、指導する保育者としては嬉しい結果であった。また、先に実習に入った年齢が比較の基準になり、乳児を先に実習した学生は、1才児が言語による自己表現ができ、歩行が完成するなど乳児との発達の差を実感し、2～3才児を先に実習した学生は、1才児の自己中心性や言語が未熟でありながらも懸命に自己主張している様子に、興味をひかれるようであった。

〈2～3才児に興味を持った理由〉

- ・自我が芽生え、お互いを譲り合うことや、時には競争する心が見え、個々の特徴がよく見えたので大変おもしろかった
- ・大人との会話ができて、私が考えていたよりもずっとたくさんを知っていた
- ・1つの遊びを次々に発展させ、自分達でどんどん楽しいことを見つけていく力はすごいと思った
- ・自分より年下の子の面倒をみたり、物を譲ったりしていたことに胸打たれた

など、興味を持った理由の約半数が、“子ども同士の関わり合い”と答えていた。2～3才児は、言葉による自己表現ができるので、実習生にとっては、個性や行動の目的など理解しやすいようである。また、ナースリー・ルームの場合、3才児が最年長になるので、他の年齢よりも全ての面でしっかりして見えることも、興味をひかれる原因になっていると考えられた。また、ケンカやトラブルへの対応に関する実習中の質問が多く、その場の保育者の対応の仕方やミーティングの際の場面の解説、保育者の保育観の伝え方などが、重要な意味をなしていくようである。

項目③では、ナースリー実習を学生はどのように受けとめているかを把握する目的で、実習は「楽しかった」「普通」「大変だった」の質問をしたところ、結果は図5の通りで「楽しかった」と答えた学生が75%を占めた。その理由としては、子どもに関われたこと、子どもの側にいられただけでも楽しかった、子どもをじっくりと観ることができた、保育者の話、などが挙げられている。

これらが示しているように、実習生にとっては当然のことながら、子どもたちと少しでも多く関わりを持ちたいと思っていることがわかる。しかし、観察実習ということで、関わりを制限される為、参加実習やアルバイト経験のある学生にとっては、ストレスになりやすいようである。実習が「大変だった」と答えた理由に、「実習生としてどう行動したらよいか困った」と表現されており、「楽しかった」と答えながらもその点に触れた感想もみられた。しかし、そのような中で「観察することで初めて気付かされたことが多い」という回答が少なくなく、短期間でしかも観察実習という制限がありながら、子どもや保育の魅力を学生それぞれが見出しているという結果が得られた。

項目④の「自分の子どもを保育園に預けて働く気持ちがありますか」の問いの結果は図6の通り、「はい」が106名(73%)、「いいえ」が34名(24%)、「わからない」が5名(3%)であった。実習前同様の質問をしたときに「いいえ」と回答した学生のうち、20名もの学生が実習後に「はい」と変化している。気持ちが変わった理由としては、

- ・保育環境によっては、子どもに様々な力がつき、家庭では与えられない広い世界が与えられると気づいた
- ・子どもにとって同年代と生活することの意味があることに気づいた
- ・保育者が子どもたちを自由に伸々と生活させ、たくさんの自立を助長してくれる存在であるとわかったなど、3才未満児保育の意義に気づいての意識の変化が殆んどであった。将来、保育者をめざす学生として、これからの保育における課題を考える上で、意義深い意識の変化である。

項目⑤の「実習後の感想」については、自由記述の為表現に多少の違いはあるが、その内容を分類すると表7のような結果となった。学生の回答の一部を抜粋すると、

- ・今までは子どもに接し共に遊ぶことが一番だと思っていたが、子どもにまかせ、見守る大切さを知った。
- ・子どもという存在は、大人が何もしてやらないと生きていけないのではなく、子どもなりの考え、意志をもっているのだと感じた。
- ・観察することはとても大切な実習だと思った。保育者の働きかけをよく見たり、子どもの様子を見てどう思っているのかと考えることができた。

- ・保育者というのは、子どもと同じ目の高さで関わり、共感することが大切であり、子どもを理解しようとする観察がとても重要だと感じた。
- ・子どもの姿をしっかりとらえていなければ、いくら頭でわかっているでもよい保育はできないと思った。
- ・子どもが好きだという理由だけでは保育になれないということが改めて感じさせられた。子どもを観察する中で、普段気づけなかった子どもの行動を知り、自分の知識不足、認識不足を思った。

などであり、子どもをよく観察することの意義を実感している回答が多い。これは、実習前オリエンテーション、実習中ミーティング等を通し、子どもが“何をしようとしているのか”“どうしたかったのか”“何故そうしたのか”等を観察のポイントとして指導したことが、回答に反映したといえる。また、ナースリー・ルームが小規模である為、子ども一人一人の行為や保育者の保育行為にじっくりと目を向けられることも、観察の濃度に影響していると思われた。更に、児童科内の施設ということもあってか、保育方針への理解や合致感があり、肯定的に受け入れられている感想が多かった反面、学生が、単に肯定的にとらえるにとどまらずに自己課題を見出している回答も多くあり、実習後の指導の重要性も痛感させられた。『一人一人に応じた実習指導』1998年、上垣内³⁾による「実習生一人一人の思考、行動様式や考えを受容し、自分らしさを出発点とした様々な学びのプロセスを援助する」という考えに共感するものである。

項目⑥の「理想の保育者像」を自由記述によって求めたところ、その内容は50種以上になり、類似する内容のものをまとめたが、それでも36通りもの回答結果が得られた。それらを人数の多い順に示したのが表8である。前項の実習後の感想の内容と理想の保育者像とが一致した回答となっていた。子どもの個々に応じた保育の重要性と、それを実施する保育者のあるべき姿が理想として挙げられている回答が81%を占めた。子どもを、ただ「かわいい」という主観の見方だけに終始せず、共感的、客観的、また発達に則した理論的視点による保育実践の意義を、この実習の成果としてとらえられたといえるのではないだろうか。反面、3名という少数だが、「子どもに人気者で、大人になったときに思い出してもらえらる保育者」「親からも魅力的な保育者」と回答し、子どもや親の評価を意識し、アイドル的な保育者像を描いている学生もいた。

年齢	人数
0-1才	43
1-2才	55
2-3才	44
全部	2

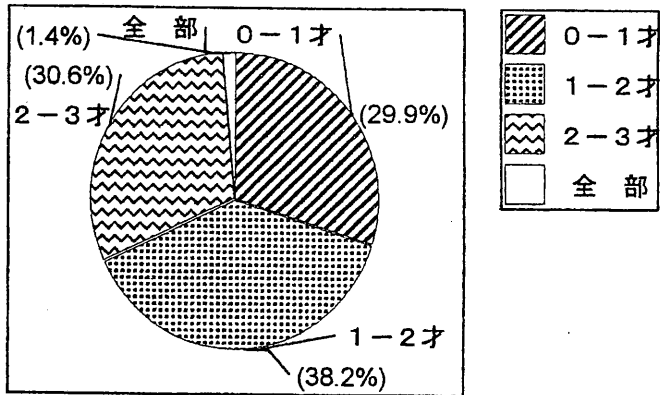


図4 最も興味を持った対象年齢(144名)

感想	人数
楽しかった	109
普通	19
大変	17

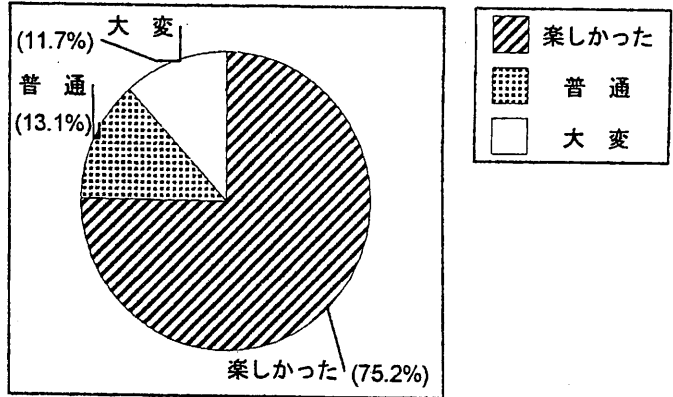


図5 実習後の感想(145名)

ある	106
ない	34
わからない	5

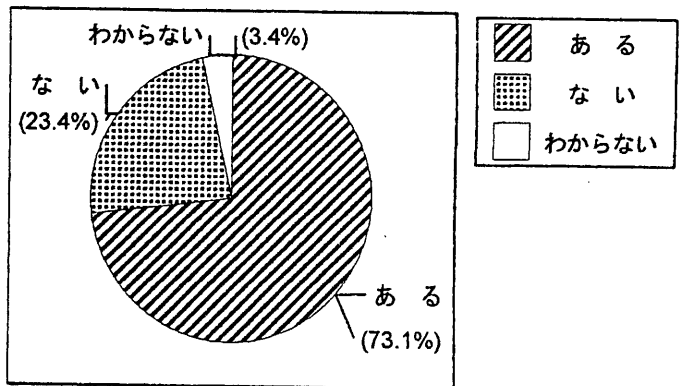


図6 子どもを保育園に預けて働く気持ち(145名)

表6 一番印象に残っていること(134名)

順位	回 答 (自由記述)	人数	%
1	子どもに関すること	56	42%
2	保育者に関すること	27	20%
3	自分と子どものかかわりに関すること	19	14%
4	保育者と子どもの信頼関係	11	8%
5	保育者に指導された内容	6	5%
6	保育室の穏やかな雰囲気	4	3%
7	その他	11	8%

表7 実習後の感想(他の実習も含む)

順位	実 習 後 の 感 想 (自由記述)	人数
1	個性を大切にする保育の意義に気付く。	23
2	保育者の役割の重要性と魅力、あるべき姿。	20
3	子供をよく観察することの意義と重要性。	16
4	子供に共感し、尊重することの大切さ。	14
5	子供自身の持つ力は素晴らしい。	8
6	小規模保育の良さ。	6
7	保育者になる為には自分自身が成長しなければならない。	5

表8 理想の保育者像

順位	理想の保育者像 (自由記述)	人数
1	子どもを理解し共感できる保育者。	60
2	子どもに信頼される保育者。	24
3	子どものありのままを受け止め、意志や気持ちを尊重できる保育者。	16
4	子ども一人一人の良さを見つけのびすことのできる保育者。	10
5	ナースリーの保育者のような保育者。	9
6	いつも笑顔の保育者。	7
	正しく叱れる保育者。	7
7	心にゆとりのある保育者。	6
	歌をたくさん歌える保育者。	6
	優しい保育者。	6
	ユーモアと元気のある保育者。	6
8	のびのびと成長できる環境を作ることのできる保育者。	5
9	適切な言葉かけアドリブのきく保育者。	4
	ピカピカの感性を持った保育者。	4
	自分の都合で子どもを動かさない保育者。	4
	子どもと同化しつつ保育者として子どもに伝えるべきことを、きちんと伝えることのできる保育者。	4

4. まとめ

以上のように、平成8年～9年にナースリー実習を行った児童学3年生146名を対象として実施した実習前後のアンケートを集計し、考察してきた中で得られた結果をまとめてみると、

1. 他の実習経験があっても、乳児に接する機会のない学生が多かった(乳児に接する経験の必要性)
2. 実習や保育アルバイト経験のある学生の中に、子どもへの新鮮な発見や興味よりも、要領や手際の良さなどのマニュアルを先に身につけてしまう学生がいた
3. ナースリー実習後に、乳児保育の意義に気づき「子どもを預けて働く」と考えが変化した学生が多かった
4. 学生の理想の保育者は、「子どもに対して共感的で個々に応じた保育のできる保育者」が8割を占めた
5. 短期間の観察実習でも、オリエンテーションやミー

ティングを丁寧に行うことによって、学生は子どもの発達や成長の様子を適確にとらえ、子どもの行動を客観的に観る重要性に気づいていた

6. 保育者の言葉は学生に与える影響が大きい
子どもの行動の解説や保育観の伝え方が、その学生の保育観、保育者観に影響することがわかった
7. 実習終了後、学生個々が見出した自己課題に対応する指導が重要である
などであった。

5. おわりに

社会状況がめまぐるしく変化し、児童学を専攻する学生の考え方、資質も少しずつ変化してきていると、実習生を受け入れる現場の保育者として実感していることは否めない。

今回の調査をまとめ考察をすすめていくうちに、それだからこそ、実習生に対し保育の技術やマニュアルを与えるのではなく、将来の保育者としてのみならず、働く

女性として、母として、子どもの理解の為の普遍性を持つ視点を学ぶ機会としての、この実習の果たす役割の重さを痛感した。

また、「エンゼルプラン」をはじめ政府、財界の少子化対策として“子育て支援”がなされている反面、密室育児、情報の氾濫による育児不安、そして保育の商品化などの渦中にある子どもたちの育つ環境が懸念される。大人の利便性に流され、子どもたちがその中に押しやられるようなことがあってはならない。それは、まさにナースリー・ルームの保育目標である「明るくのびのび元気な子」が育つこと、換言すれば、子ども自ら育つための支援のあり方を考えるべきときではないかと思う。その為には我々保育者自身、将来保育者そして母親になるであろう学生一人一人が、しっかりと子どものあるべき姿を見つめ、伸々と育つことを保障することのできる目と保育力を持たなければならないことを再認識した。さらに、実習現場の保育者が、学生個々に応じた丁寧な実習指導を心がけることが、学生の子ども理解の意欲を増し、その学生なりの保育観形成の一助となることを念頭におきながら、今後の指導のあり方を更に探っていききたい。

引用文献

- 1) 加用美代子 「保育学生の母性意識」1997 日本保育学会第50回論文集
- 2) 上田 哲也 「保育学生の保育職人以外の職業選択」1995 日本保育学会第48回論文集
- 3) 上垣内伸子 「保育方法の原点を探るV 1人1人に応じた実習指導」1998 日本保育学会第51回論文集

参考文献

- ・「今保育者の力量に求められるもの——保育者像の変化と養成校の役割——」1997 日本保育学会第50回論文集 自主シンポジウム19
- ・赤井住郎 「保育科学生における保育者像」1997 同上論文集
- ・野村知子 「幼稚園教育実習の事前学習について」1998 日本保育学会第51回論文集
- ・原口純子 「保育者を育てる(3)」1998 同上論文集
- ・澤津まり子 「子どもとのかかわりの中でみる実習生の育ち」1998 同上論文集
- ・村田保太郎 「幼児理解と発達課題」1990 全国社会福祉協議会
- ・全国保育団体連絡会・保育研究所編 「'98保育白書」1998 草土文化

ナースリー・ルーム・実習前アンケート

1. 今までに実習の経験が、ありますか？
(1) ある (2) ない
実習先は、(1) 保育所 (2) 施設()施設
(3) 幼稚園 (4) その他

2. 今までに乳児に接したことが、ありますか？
1才未満児(乳児) (1) ある (2) ない
1才から3才未満児 (1) ある (2) ない

3. 実習に対しての、不安がありますか？
(1) 非常にある (2) 少しある (3) ない

4. あなた自身は、幼稚園、保育園、どちらに行きましたか？
(1) 幼稚園 (2) 保育園 (3) 行かなかった
保育園は、何才の時に入園しましたか？()才頃
当時のことを覚えていますか？
(1) いる (2) いない

5. あなたは、自分の子どもを保育園に預け、働く気持ち
ちはありますか？
(1) ある(理由は)
(2) ない(理由は)
どの位から預けたいと考えていますか？
()才 ヶ月頃)

6. あなたが児童科を選んだ動機を、2つ選んで下さい。
(1) 子どもが好きだから。
(2) 自分に向いていると思ったから。
(3) 子どもの頃から保育者に憧れていたから。
(4) 幼児教育の重要性を感じたから。
(5) 資格を取得するため。
(6) 親、先輩に勧められたから。
(7) 将来子どもを育てるのに役立つから。
(8) 教養を深め視野を拡大し、人格形成を計るため。
(9) 専門知識や技術を修得するため。
(10) その他。

7. 将来どんな職業に就きたいと考えていますか、2つ
選んで下さい。

- (1) 幼稚園教諭
(2) 保育所保母
(3) 社会福祉事業専門員
(4) 事務、経理従事者
(5) 営業、販売従事者
(6) 旅行プロモーター
(7) コンピュータープログラマー
(8) その他

実習期間 199 年 月 日～ 月 日
学 児童学 No.
氏名

ナースリー・ルーム・実習後アンケート

1. 実習を終えて一番印象に残っていることは何ですか？
2. 興味を持った対象児は？
(1) 乳児 (2) 1～2才児 (3) 2～3才児
どんなことが印象に残っていますか？
3. 実習は想像していたよりも
(1) 楽しかった
(2) 普通
(3) 大変だった
理由
4. 各対象児についての感想をご記入下さい。
乳児

1～2才児

2～3才児
5. 実際に子ども達に接してみて、保育の仕事に一層興味を覚えましたか？
(1) はい (2) いいえ
6. あなたは自分の子どもを保育園に預け、働く気持ちがありますか？
(1) ある (2) ない
実習後に気持ちが変わった方は、その理由をお書き下さい。
7. 実習期間は？
(1) 少し短いと感じた
(2) ちょうど良い
8. 今までに経験した実習を通して、あなたが感じたことや考えたことなどを具体的にお書き下さい。
9. あなたの理想の保育者像は？
(どんな保母、先生になりたいですか)
10. ナースリーに対して、ご意見やご希望がありましたらお書き下さい。

ご協力ありがとうございました。

実習期間 199 年 月 日～ 月 日
学 児童学 No.
氏名